

九州保健福祉大学

第3期



中期目標・中期計画書 (2023年度～2027年度)

社会からの期待の創出に向けて

九州保健福祉大学【第3期】中期目標・中期計画

(2023年4月1日～2028年3月31日)

学長 児玉 修

平成11(1999)年に社会福祉学部と保健科学部の2学部6学科からスタートした本学は、現在では、4学部6学科、通信教育部、1別科、3研究科から成る総合大学に発展することができました。

一方、急激な少子化の進行に伴い、本学にとっても入学者の確保は緊要かつ不可避の課題になっています。また、平成29(2017)年に「教育の内部質保証に関するガイドライン」が出されて以降、大学には自己改革を日常的かつ継続的に進めていくことが強く求められるようにもなりました。

こうした課題に対応していくためには、建学の理念のもと、社会からの既存の期待に誠実に応えていくだけでなく、期待されている内容の水準を高めていくこと、すなわち、ブランド力の強化が本学にとっては急務となります。本学の教育内容や研究内容の新たな(潜在的な)魅力、有効性、価値を社会に積極的に発信し、本学の学生のみならず、地域住民、小中高校生や教員、医療・福祉関係者、自治体や企業の関係者、大学関係者等から「九州保健福祉大学ならできるはずだ」と期待される教育・研究の水準を高め、期待内容を広げていくことが求められています。社会からの期待をまさに大学の側から創りあげていくことの必要性です。

教育にかかわるブランド力の強化については、本学では、①「学びを応援」し、②享受(「エンジョイ」)できる学びを実現し、③多くの人たちとの「縁」(出会い)を紡ぎ出し、④地域を動かす力(「エンジン」)になれる企画を実施する、の4つの「えん」に焦点化して取り組むことを社会に発信しています。これは、学生の夢や可能性を実現するために、本学が4つの焦点からさらなる新しい期待や可能性を創り出していくというメッセージでもあります。

ブランド力の強化は、「ひとつひとつの具体的な取組が学生や社会の期待にどれほど応えているか」、「応えることができていないとすれば何をどう改善すべきか」、「社会からのどのような新しい期待に応えるべきか」、「それをどう創り出すか」といった“日常的な内部質保証”を繰り返していくことによって実現します。

また、社会からの期待を高めていくためには、他の大学や研究機関、自治体、企業等と連携することによって、これまでできないと思われていたことをできるようにすることも不可欠の取組となります。さらに、学生を含めた社会からの幅広い期待に応えていくためには、教職員が一体となってより円滑に協働できるような大学組織に変えなければなりません。

第3期の中期目標・中期計画は、以上のように、学生の夢や学びに向き合い、応援し続けながら、社会からの期待の創出を目指していくというコンセプトのもとに策定されました。

本学は、25周年を迎える令和6(2024)年度には、大学名称を「九州医療科学大学」とあらためるとともに、社会福祉学部には救急救命士を養成するコースを開設し、通信教育では「ハイブリッドコース」の運営を計画しています。

本学は、いまをまさに転機と捉え、学生と向き合う教育の質的向上を基盤に、ブランド力の強化に取り組みます。

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学 (大学全体)

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>全学共通計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p>	<p>1 3つのポリシーを明確に示し、その実質化並びにアセスメントポリシーの策定に努め、ステークホルダーへの理解を深めることで、教育目標の実現を図る。</p> <p>2 学修者本位の教育課程編成の理念のもと、学部学科毎に掲げる3つのポリシー (DP・CP・AP) を明確に定め、学生などのステークホルダーに対し、ホームページ・ガイダンス・オリエンテーション等様々な方法を活用し周知する。また、学生自らの学びを省察できる体制を構築する。 その方法として以下の取り組みを重点課題とする。 ・学修支援システム (UNIVERSAL PASSPORT) の積極的な活用 (特に学修ポートフォリオ、マイステップの機能) ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講促進 ・初年次教育につながる入学前教育の実施</p> <p>3 学部・学科のポリシーに基づく入学者選抜を実施するために以下の取り組みを行う。 ・アドミッションポリシーに沿った、入試科目の設定 ・高等学校の教育課程に応じた出題範囲の設定と見直し ・学力の3要素、意欲、資質、能力を多面的に評価する評価基準の見直し ・入学者の追跡調査 ・上記4つの実施とその結果の分析、それを踏まえたアドミッションポリシーの策定</p> <p>4 学部学科の人材養成の目的を明確化に示し、土台となる横断的な基礎教養教育を実践することで、医療・福祉などのコ・メディカル専門人材を育成する。その一例として、アクティブ・ラーニングを推奨し、自ら考え実践できる人材の養成に繋がる教育手法を共有する。</p> <p>5 学修成果の点検・評価においては、3つのポリシーを踏まえて、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように、卒業生や地域社会関係者による効果的な第三者評価の実施など、教育の改善向上に取り組む。</p> <p>6 大学全体のFD活動はもとより、学部学科毎のFDの実践を推奨し、個別の課題を横断的に共有することで、全体の課題解決に取り組む。また、教育実践の点検評価として、授業アンケートの実施方法並びに内容を検証することで、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組む。</p> <p>7 中核センター教育開発部門が中心となり、教授方法改善に繋がるFD活動を毎年実施し、学部学科の垣根を超えた教員間のグループワークを行うなど、教育方法の改善に取り組む。</p> <p>8 本学は医療・福祉を中心とした専門職人材養成を目指す学部学科により構成されている。その土台となる基礎教養教育の充実並びに開発に努め、地域社会に貢献できる人材養成を実践できるカリキュラムを構築する。 ・カリキュラムツリー (履修系統図) 及び履修モデルの活用、精査 ・シラバスの検証とチェック体制の強化</p>
	<p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p>	<p>1 中核センター教育開発部門を中心に、教職協働によるエンロールメントマネジメントに関する方針・計画・実施体制を適切に整備し、運営する。 ・全学的なチューター制度を土台に、学修支援システム (ユニバ) の積極活用により、学生 個々の支援体制を強化 ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期対応を図ることで、未然に退学を防止 ・学生のキャリア開発を重点課題と掲げ、在学中のあらゆる活動を可能な限り可視化 (ユニバ、マイステップの積極活用) し、学生の満足度を向上</p>

<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>		<p>2 SAまたはメンター制度を確立する。英語村及びボランティアセンターを機能拡充し、学習支援体制を充実する。</p> <p>3 教務課が中心となり教室管理を行っており、出欠管理システムを導入し、教職協働により適正に管理運営を行っている。今後については、経年劣化に伴う改修等も見据え、将来計画を踏まえた実現可能かつ実効性のある学修環境を提供する。</p> <p>4 学生アンケートの実施と内容改善に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。 ・授業アンケートの回答促進を行い、毎年度の回答率向上に取り組む ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。</p> <p>5 本学では、学科等毎に進級規程を定め学生便覧において周知徹底を図り、厳正に適用することで進級・卒業率の向上に取り組んでいる。単位認定評価においても、全ての学部学科において卒業研究を必須化したり、ルーブリック評価を用いた評価を推奨している。</p> <p>6 自ら考え行動できる専門職人材を養成する為に、学部学科を横断した教養科目の開発に取り組み、専門的な知識と技術の実践に必要な、思考力・判断力・コミュニケーション能力、及び国語力等の基礎学力向上に取り組む。 ・すらの利用促進を含め、基礎学力向上に向けた取り組み強化について全学的に検証 ・大学独自科目の推進、強化</p>
	<p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p>	<p>1 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備を進める。地元企業と連携し、学生のキャリア形成支援の取り組みとしてオープンカンパニーを含む企業との接点を積極的に提供する。また、外部機関と連携し学生のキャリア支援を強化する。</p> <p>2 就職支援サイトと連携することで就職支援の強化に努める。ミスマッチを防ぐことを最大の目的とし、本学独自の就職ガイダンスを実施する。また、各地で開催される就職説明会等の情報を収集し、職種にあった情報をリアルタイムで提供する。</p> <p>3 キャリア支援の一環として、公務員試験対策講座の強化を進める。参加学生の要望や各自自治体の採用試験に合わせ、現場の専門職も参加した、より有意義な講座とする。</p> <p>4 学生に各種就活イベント等への参加を促進する。各学科のキャリアサポート委員と連携し、学科が求めるガイダンスを通年で実施する。また、対面での就職活動を意識したイベントも新たに計画する。</p>
	<p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>1 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理を行う。 ・施設設備の優先順位や必要性を明確化した上で、中長期的視点に立った修繕計画の立案や既存施設の老朽化対策を検討することで、学修環境の整備や管理を行う。</p> <p>2 実習施設、図書館等の有効活用を検討し、学生のニーズに対応する教育研究環境を整える。</p> <p>3 学修環境に関するアンケート調査や学生との意見交換の結果を分析・検討し、安全で快適なキャンパス生活実現に向けた環境整備に取り組む。 ・建物の利用状況や用途、設備の整備状況等を把握し施設の有効活用を図る。</p>
<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>1 外部研究費の獲得や国際学術誌への論文投稿などを促進する研究支援体制を構築することで研究環境の整備に努め、実施される研究活動についても研究倫理や安全面での管理を行い、適切な研究体制の運営を行う。</p> <p>2 研究活動を適正に行う為に、関係諸規程の見直しや制定を行い周知する。併せて関係委員会などにおいて厳正な研究内容の審査を実施し適正な運用を行う。</p> <p>3 研究活動への助成として、研究経費助成や地域創生事業経費助成など現行の助成以外にも、学内資源の配分を見直すことで、国際的な研究を対象した更なる助成体制を創設し、研究のグローバル化に取り組む。</p>

		<p>4 研究活動の点検・評価においては、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを確立し、より質の高い研究活動が実施できるよう、適切な研究体制を構築する。</p> <p>5 論文発表、学会発表等の研究成果を可視化・公表することで、地域における研究のノード機関としての役割を構築する。</p>
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>1 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握し、分析・検討することで学生サービス向上に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 学生の健康管理に関して外部機関と連携 課外活動支援の充実 <p>2 各機関および諸団体から提供される奨学金情報は、遺漏のないように対象となる学生に確実に案内をすることで、学生の経済的負担を軽減することに繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家計急変等の情報を教職員間で共有することで、学生支援体制を構築 <p>3 バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性向上を図る事で、学生サービス向上に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査及び学生との意見交換を実施。
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>1 アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施と検証を行う。(再掲)</p> <p>2 入学定員に沿った適切な学生受入数の維持に取り組む。</p> <p>3 入試データの分析、高校との連携強化に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学後の追跡調査、入学後の学生の伸長などの分析を行い、各部署と連携し高校への情報発信を実施 <p>4 学生を活用した大学の魅力を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化、校友会組織の強化、在学生に対するイベントの企画・告知・実施 <p>5 効果的な学生募集の実施に向けて、同窓生(会)との組織的な連携に取り組む。</p> <p>6 地域の学びの拠点として、施設の開放や受け入れなど以下の内容を積極的にこなうとともに広く活動を周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元学生・生徒のための体験行事、課外学習の受け入れ 施設の貸し出し、本学を会場とした公開講座の実施やセミナーなどのイベントを開催 <p>7 教員一人ひとりの研究内容、成果についての情報発信を行う。また、高校生の課題研究に積極的にかかわり、高校との連携強化に取り組む。</p> <p>8 SNSを活用した、本学の魅力(学科の特色)や大学・学科の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生スタッフを配置し、学生目線の情報発信による募集広報戦略を展開 <p>9 通信教育部独自の募集方法として教育提携校や提携施設を増やし募集を図る。また社会人および通信制や定時制を持つ高等学校への通信教育の周知を図り、ハイブリッドコースの魅力も新たに取得しながら広報活動を行うとともにインターネットを利用した募集強化の充実を図る。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生の受け入れ増加、受け入れに伴う環境整備の推進、ラーニングサポートセンター(英語村)の充実など <p>2 海外留学・短期研修プログラムについては積極的な案内を進め、参加学生の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ラーニングサポートセンター(英語村)において、留学を希望する学生の語学力の向上のためのネイティブ講師によるレッスンを充実 留学を目的とした英語力の向上を目指すだけでなく、国際交流のためのイベントなどを充実 <p>3 海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を推奨し、学内の研究助成対象とすることで、研究のグローバル化を推進する。</p>

<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為の拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進 ・県内の大学間連携を推進
<p>大学運営・財務</p>	<p>1) 教学マネジメントの確立並びに組織改革</p> <p>建学の理念実現に向けて、学長のガバナンスの下、積極的に教職員の能力開発を行うことで、教学マネジメントの確立に取り組む。併せて組織体制を見直すことで大学運営の機能性向上に取り組む。</p> <p>2) 適正な財務基盤の強化並びにチェック体制の構築</p> <p>学生確保の改善により適正な財務基盤の確立・強化を行うと共に、経営の規律や誠実性を考慮したチェック体制を構築することで、安定した大学運営を行う。</p>	<p>1 大学の意思決定や教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップを確立し機能させる為に、学長の補佐体制や規則等の整備を行うことで効果的な改革を実施する。</p> <p>2 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントを構築することで、組織の機能性向上を図る。</p> <p>3 職員の配置と役割の明確化を行い、教学マネジメントの機能性確保に取り組む。</p> <p>4 学長のガバナンスの下、建学の理念を実現すべく、事務局とも連携・協働しながら教育目的及び教育課程に則した教員の採用・昇任等を実施する。また、研修などを通じて質の高い教員を維持・確保し、適正な配置に取り組む。</p> <p>5 FDをはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫を行う事で、効果的な教員の能力開発を実施する。</p> <p>6 SDをはじめとする大学運営に関わる職員の資質力向上への取組みを推進する。</p> <p>1 経営の規律と誠実性の維持に取り組む。</p> <p>2 使命・目的の実現の為に継続的努力が行える体制を構築する。</p> <p>3 環境保全、人権（ハラスメント）、安全等へ配慮することで健全な職場環境を構築する。</p> <p>4 使命・目的の達成に向けて、意思決定ができる体制の整備とその機能性向上に取り組む。</p> <p>5 学長のガバナンスの下、建学の理念を実現すべく、法人及び大学の各管理運営機関の意思決定が円滑に為されるよう改善に取り組む。</p> <p>6 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェック機能を見直すことで、適正な管理を行う。</p> <p>7 第3期中期目標・中期計画に基づき、適切な財務運営の確立に取り組む。</p> <p>8 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保に取り組む。</p> <p>9 会計処理を適正に実施すると共に、会計監査の体制整備と厳正な実施に取り組む。</p>
<p>内部質保証</p>	<p>1) 内部質保証体制の構築</p> <p>内部質保証の組織体制を構築することで、自己点検・評価の機能性を高め、より効果的な点検・評価が行えるよう改善に取り組む。</p>	<p>1 内部質保証のための組織整備を行うことで、責任体制の確立に取り組む。</p> <p>2 内部質保証のための自主的・自立的な自己点検・評価を実施し、その結果を共有することでPDCAサイクルの確立と検証に取り組む。</p> <p>3 IRなどを活用して十分な調査・データの収集を行い、分析・評価することで、より効果的な点検・評価の実施に取り組む。</p> <p>4 PDCAサイクルの仕組みを確立し、その機能性を高める事で、学部、学科、研究科等の点検・評価と大学全体の点検・評価を連動して点検・評価する。</p>

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（スポーツ健康福祉学科）

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>スポーツ健康福祉学科</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。</p> <p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p> <p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p> <p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>◆3つのポリシーを明確に示し、それらを踏まえた学修成果の可視化を図り、学生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。</p> <p>◆リメディアル教育、とくに基礎国語力の向上について、学修成果の可視化を図りながら学びに対するモチベーション維持・増進を図る。</p> <p>◆建学の理念、学部・学科の人材養成の目的を踏まえたアドミッションポリシーを策定し、学力の3要素、意欲、資質、能力を多面的に評価する評価基準の見直しを図る。</p> <p>◆卒業研究をはじめとしたアクティブ・ラーニングを活用し、自ら考え実践できる人材の養成に繋がる教育手法について検討し、実践する。</p> <p>◆3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価を行い、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善向上に取り組む。</p> <p>◆学部（学科）FDを継続して企画・実施することで、個別の課題を横断的に共有し、学部（学科）全体および各コース個々の課題解決や、教員個々および教員組織としての教育力の向上に取り組む。</p> <p>◆国家資格取得を目指す学生に対してロードマップを作成し、指導内容と学生の習熟度を評価し、学修成果の可視化を図りながら国家試験合格を目指す。</p> <p>◆問題を抱えた学生を可能な限り早期に発見・対応するために、チューター・学科教員・カウンセラー・保護者・事務職員との連携を図った支援体制を強化する。</p> <p>◆学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように支援体制を整える。</p> <p>◆進級規程に定められたGPAおよび修得単位数の基準の意義を1・2年生にわかりやすく説明し、これらの基準を卒業に向けた短期目標として捉え、将来に希望を持ち学業に取り組めるように、また3・4年生については、卒業や資格取得等の具体的な目標を定めて主体的に学業に取り組むことができる支援体制を整える。</p> <p>◆学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」をキャリアサポートセンターとの協力により構築し、キャリアサポートセンターを積極的に活用するように促す。</p> <p>◆ミスマッチを防ぐため、学生個々の具体的な進路や希望する就職先に応じた「就職支援体制」をキャリアサポートセンターとの協力により構築する。</p> <p>◆キャリアサポートセンターと協力し、公務員対策を強化する。</p> <p>◆教員が有する地域社会・地域資源との関係を活用して、学生の就職に活かす。また、新たな就職先の開拓にも努める。</p> <p>◆学科の各コースの強みや特色を活かした教育・研究環境の整備に取り組む。</p> <p>◆実習施設、演習室、図書館等の有効活用を図る。</p> <p>◆学修環境に関して学生の意見を基に検討し、学科レベルで可能な学修環境の整備に取り組む。</p>

<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域における中核的な研究拠点として、学科の特色を生かした研究を推進する。 ◆学生を巻き込んだフィールドワークを行い、研究に繋げる。 ◆学科や学内の教員間での共同研究を促進する。 ◆研究機器・備品等ハード面の適切な管理およびより使いやすい環境に整備する。 ◆学会発表や学術雑誌への論文投稿を促し、研究力のアップを図る。 ◆研究成果をフォーラム、シンポジウム、研修会等で地域住民に還元する。 ◆研究活動の助成として、科研費申請や学内の「研究経費助成」、「地域創生事業研究助成」への申請を促す。
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆悩み（学生生活や授業など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。 ◆チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行い、また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。 ◆学科会議において学生の状況を共有し、学科全体で支援する体制を整える。 ◆学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆戦略的な募集活動を行う。 ◆学科の施設・設備の整備を実施する。 ◆社会的ニーズに応じた教育力の向上を図る。 ◆学科の魅力・特色や大学・学科の情報発信・広報活動を積極的に行う。
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆留学生の受け入れについて、事務部門と連携・協力して環境整備を図る。 ◆海外留学・短期研修プログラムについては積極的な案内を進めて、参加学生の増加を図る。 ◆海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などを推奨する。
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為の拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆教員とともに学生も参加し、地域の活性化や地域課題解決に向けたフィールドワークに積極的に取り組む。 ◆大学の施設や人材等を活用して、地域（自治体、関係機関、団体等）と共同企画を検討し、学生の主体的参加を促しながら協働事業を充実していく。 ◆イベント情報を教員が把握し、より多くの学生にイベント参加を促す。 ◆地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の委員要請に応えていき、知の拠点としての役割を果たしていく。 ◆福祉関係機関や教育現場（小学校・中学校・高校）との連携を強化し、教員の教育力・研究力を発揮する機会を創ると同時に、地域の活性化や人材育成のために大学の知の還元を推進する。 ◆地域における福祉、健康やスポーツに関する課題の解決を目的とした調査研究を実施する。

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（臨床福祉学科）

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>学科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆福祉現場のニーズに対応できる専門知識や技術、実践力を備えた福祉・教育人材を育成するというディプロマ・ポリシーに基づく単位認定を行うための基準を策定し、学科での周知活用を目指す。 ・福祉人材育成に求められる評価ポイントを整理し、学科内で共有し各教員が単位認定の在り方を検討する ◆社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を目指す学生に対してロードマップを作成し、指導内容と学生の習熟度を評価しながら国家試験合格を目指す。 ◆3つのポリシーを踏まえた学習成果の点検や評価を定期的に学科内で行い、より質の高い教育の提供を目指す。 ・学科内で学内教育および実習教育等の学外教育において注意や教育上の配慮を要する学生の情報を共有し、学生教育の質の向上を目指す。 ◆大学および学部FDに積極的に参加し、教員の教育力向上を目指す。 ◆座学講義におけるアクティブラーニングの導入を推奨する。また、アクティブラーニング実施科目の実施状況を学科内で共有し、効果的な教授法について検討する。
	<p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ディプロマ・ポリシーに基づいた卒業研究の評価基準を策定し、卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。 ◆1年次からの卒業研究教育法を確立し、4年間を通じた卒業研究指導を目指す。 ◆教員による講義参観や複数担当教員科目を通じて、教員相互で教授法について定期的な意見交換を実施し、また、授業アンケートの結果を踏まえ、各講義の教授法改善の良循環を目指す。 ◆国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎ならびに論理的思考を身につけさせ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆技術につなげる。 ◆統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルを習得させ、エビデンスに基づいた論理的思考教育を目指す。
	<p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p>	<p>就職率100%を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「基礎演習」(1年次必修)の中で、キャリア教育を取り入れ、就職についての動機付けを行う。 ◆学会協議等を利用して、個々の学生のニーズを教員間で共有し、学科全体としてのサポート体制を整える。 ◆ミスマッチを防ぐために、インターンシップや就職ガイダンス等への参加を促進して、学生の自己覚知を促す。 ◆キャリアサポートセンターを積極的に活用するように指導する。特に就職面接対策講座等の受講を促す。 ◆キャリアサポートセンターとの連携を密にはかる。特に就職面談会等の情報を教員も把握して、参加促進をはかる。 ◆教員が有する地域社会・地域資源との関係を活用して、学生の就職に活かす。また、新たな就職先の開拓にもつとめる。
	<p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学修環境に関して学生の意見を基に、学修環境について検討し安全で快適なキャンパス生活実現に向けた環境整備に取り組む。 ・演習室、図書館、英語村等の有効活用を図る。

<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>◆地域における中核的な研究拠点として学科の特色を生かした研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークや資源を活用し、地域に密着したテーマに基づいた研究を推奨する。 ・学生を巻き込んだフィールドワークを行い、研究に繋げる。 ・学科教員間での共同研究を勧める。 ・研究成果をフォーラム、シンポジウム、研究会等で地域住民に広く還元する。 ・学会発表や学術雑誌への論文投稿を促し、研究力のアップを図る。 <p>◆研究活動の助成として、科研費申請や学内の「研究経費助成」、「地域創生事業研究助成」への申請を促す。</p>
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>◆学生の健康相談や経済的支援（奨学金等利用を含む）に関して担当部署、保護者等との連携を図る。</p> <p>◆学内のバリアフリーに関する課題を検討し学内の利便性を図り、学生のサービスへとつなげる。</p>
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>◆学科の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校（特に出身校や福祉科高校など）と連携を図り、学科の魅力を伝える。 ・学科ブログを更新し、近況をアップする。 ・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 <p>◆オープンキャンパスのあり方を検討し、分かりやすい学科案内方法を検討する。</p> <p>◆高校のガイダンス（出張講義）や大学見学会、体験型模擬授業、こども体験学習等を積極的に受け入れ、福祉の職業理解につなげる。</p> <p>◆学生が地域（学外）に出る機会（ジョイフルキッズクラブ、ボランティア活動、授業活動等）を通して、地域との交流を図る。</p> <p>◆公開講座やセミナー、科目履修証明プログラム等を通して、教員一人ひとりの研究内容や講義内容を地域住民へ情報発信をする。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>◆海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などを推奨する。</p> <p>◆留学生の受け入れを積極的に行い、事務部門と連携・協力して、受け入れに伴う環境整備を図る。</p>
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為に拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>◆教員をはじめ学生参加により、地域の活性化や地域課題解決に向けたフィールドワークを積極的に取り組む。</p> <p>◆大学と地域（自治体、関係機関、団体等）と共同企画を検討し、学生の主体的参加を促しながら協働事業を充実していく。</p> <p>◆地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の委員要請に応じていき、知の拠点としての役割を果たしていく。</p> <p>◆福祉関係機関や教育現場（中学・高校）との連携を強化し、教員の研究力を発揮する機会を創ると同時に、人材育成・地域の活性化に還元していく。</p>

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学 臨床心理学科

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p>	<p>1 臨床心理学科における3つのポリシーを明確に示し、ステークホルダーへの理解を深めることで、教育目標の実現を図る。</p> <p>2 臨床心理学科が掲げる3つのポリシー（DP・CP・AP）について、学生などのステークホルダーが、ホームページ・ガイダンス・オリエンテーション等の様々な方法をスムーズに活用できるように促す。また、学生自らの学びを省察できる体制を構築する。その方法として以下の取り組みを重点課題とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の積極的な活用を促す。 ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講を促進させる。 ・国語力等の向上のための課題実施及び、elearningを積極的に活用する。 ・初年次教育につながる入学前教育の実施する <p>3 学生自らが考える力を向上させる。その対策として以下のような取り組みを進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究指導のあり方を検討し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究を目指す。 ・できる限り多くの科目において、学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。 ・コース会議等で卒業研究の取り組み状況を確認し合い、全員の卒業論文の完成を目指す。 <p>4 基礎国語力増進させる。対策として以下のような取り組みを進めていく。</p> <p>5 学修成果の点検・評価においては、臨床心理学科の3つのポリシーを踏まえて、PDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善・向上に取り組んでいく。</p>
	<p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p>	<p>1 大学院進学希望者への効果的な対策を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校英語の再学習の機会を設け、英語力の向上を図る。 ・英語力を積極的に活用し、インプットだけでなくアウトプットの学習にも力を入れる。 <p>2 国家試験合格率アップへ向けた対策を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策部会で効果的な対策方法を検討・実施し、コース会議等でその効果を検証する。 ・1年次から資格関連科目の授業において、必要に応じて資格取得の意義・意識づけを行う。 ・資格希望者のうち、成績不振者に対して個別指導による国家試験対策を行う。 ・コース会議等で各学生の成績を共有し、教員間で個別の対策を検討する。 <p>3 学科教員の教育力のアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けたFDへの積極的な参加を促す ・学修成果可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みを検討する。 <p>4 教育施設のレベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等を設備し、学内の実習・演習等で積極的に活用する。 ・学生の学習場所として演習室を積極的に開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 ・学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。

<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p>	<p>1 学生の希望する就職先への就職率をアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履歴書作成や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する就職先へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。 「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生に臨床教育を行う。 低学年からインターシップへの積極的な参加を促し、キャリアイメージを早期に形成できるように支援を行う。 <p>2 キャリア支援の一環として、行われる公務員試験対策講座への積極的な参加を学生に促す。</p> <p>3 学生に各種就活イベント等への参加を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアサポートと連携し、学科に必要なガイダンスを通年で実施する。 対面での就職活動を意識したイベントへの参加を促す。
	<p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>教育施設のレベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等を設備し、学内の実習・演習等で積極的に活用する。 学生の学習場所として演習室を積極的に開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。
<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>1 学科教員の研究力アップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 研究力アップの仕組みを充実させ、研修等を周知する。 学会への参加等、研究活動に必要な機会を保障する。 学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 <p>2 研究施設のレベルアップ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な研究施設・設備の調査を行う。 研究施設充実のための資金調達の検討を行う。 必要な研究施設整備を行う。 <p>3 外部資金の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得に関する研修会等の参加を促す。 研修等で得た知識を活かして、資金獲得の具体的な対策を立てる。 科研費や外部資金への積極的な申請を促す。
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>1 学生生活を積極的にサポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的なチューター面談を実施し、学生の情報をコース会議等で報告し、教員間で共有する。 学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。 学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。 学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。 <p>2 退学者を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。 教員はオフィスアワーだけでなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。 チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。 転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制をとる。

		<p>3 社会人としてのマナーを身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。 教員から学生に対して積極的な挨拶を行い、普段から学生にどの程度のマナーが身につけているかを教員間で確認する。 学内実習を通して、社会人として現場に必要な基本的態度、他人との関わり方について具体的な指導を行う。
募集力(ブランド力)	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>1 学科入学定員確保のための対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるよう日々努力する。 入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講義等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、一般入試における入学希望者の増加に繋げる。 本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 入学者に対する入学動機、傾向を調査し、結果を広報活動に活かす。 入試広報室と定期的に情報交換会を行い、奉公活動のあり方を協議する。 高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 <p>2 学科の魅力を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高生の学科見学、高校からの模擬講義、出張講義等に積極的に対応する。 社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパス等で紹介する。 国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 保護者通信等で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。
グローバル化	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科の学生に対して、ラーニングサポートセンター(英語村)の積極的な利用を促す。 学科教員に対して、海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を促す。
地域活性化	<p>1) 地域活性化の為に拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>1 学科教員の地域連携力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況(連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況)を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携の強化を図る。 教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する(自治体・関係機関等) 連携推進に係る検討チームを設置し、地域要請に応えられるよう相談窓口を検討する。 学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学 通信教育部

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>学科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p> <p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p> <p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p> <p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>・3つのカリキュラムポリシーを明確に示すとともに、通信教育部の特徴について、学生などステークホルダーに対し、多様な情報媒体（雑誌、ホームページやガイダンス等）を活用し周知する。</p> <p>・学修者が目標とする資格取得や学習方法を支援するため、カリキュラムツリー（履修系統図）や履修モデルを提示する。</p> <p>・定期的な授業アンケートを実施し、学修成果の点検や評価を行い、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組み、より質の高い教育の提供を目指す。</p> <p>・オンラインによるスクーリングの効果的な教授法について検討する。</p> <p>・通信教育部の学習支援体制の改善点を明確にし、環境を整備していく。</p> <p>・特に、ハイブリッドコースの学生が、学内で相互交流したり、添削課題等に取り組むことができる場所・空間を確保する。</p> <p>・学生によっては通信環境が不安定な場合もあるため、学内において、スクーリングや単位認定試験の際に活用できるパソコン室を設置し、運用する。（LL教室等学内優先で使用されている為、随時使用できない状況にあるため）</p> <p>・オンラインによる学生相談会を実施し、得られた情報を適切に分析・検討していく。</p> <p>・学生の学修進捗状況を確認し、継続的な学修環境へのサポートを通して、退学防止に努める。</p> <p>・キャリアサポートセンターと連携し、通信教育部からの就職希望者に対しても就活情報の提供を行う。また、必要に応じてオンラインでの面接指導や履歴書添削など、個別の就職支援も行う。</p> <p>・学生からの要望があれば、求人受付ナビの閲覧が出来るように設定し、本学に届いている全国からの求人情報をオンラインで確認出来るよう設定する。</p> <p>・ハイブリッドコースの学生が、学内で相互交流したり、添削課題等に取り組むことができる場所・空間を確保する。（再掲）</p> <p>・学生によっては通信環境が不安定な場合もあるため、学内において、スクーリングや単位認定試験の際に活用できるパソコン室を設置し、運用する。（LL教室等学内優先で使用されており、随時使用できない状況にあるため）（再掲）</p> <p>・通信事務課に隣接して学生の相談スペースを確保し、通信生が来学した際に、気軽に相談できる環境を整備する。</p>
<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>・基礎となる学部において研究活動を推進する為、通信教育部独自では目標や計画は策定しない。</p>
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>・通信制への入学動機等から、心身に関することや経済的な背景を把握し、支援の必要性を通信事務課と教員で情報共有し、支援体制を構築していく。</p> <p>・経済的支援（奨学金等利用を含む）に関して担当部署、保護者等との連携を図る。</p> <p>・学修の進捗状況を把握し、必要に応じて個別に相談対応していく。</p> <p>・学生の問い合わせに対して、メール・電話等を活用して迅速に対応できるようにサービス向上に努める。</p>

<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部の特色(福祉と心理が学べる)や学習方法の選択性(ハイブリッドコース設定のメリット)等についてわかりやすいパンフレットや広報媒体等を作成し、募集広報戦略を検討する体制を作っていく。 ・通信教育部独自の募集方法として、教育提携校や提携施設を増やすとともに、募集を全国圏域に拡大していく。 ・社会人及び通信制や定時制をもつ高等学校に通信教育の周知を図る。新たにハイブリッドコースの魅力も取り入れながら広報活動を行う。 ・インターネットを利用した募集強化の充実を図る。
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学全体でのグローバル化の推進には協力するが、学部の特長から通信教育部独自では目標や計画は策定しない。
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為に拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材の充足と質の向上に資するため、福祉施設等や関係機関・団体との提携により、実践現場職員のスキルアップに寄与できるよう知の拠点としての役割を果たしていく。 (現状：ある福祉職場では高校卒業の職員が入職と同時に通信教育部に入学させて資格取得と大学卒業を目指す環境を整備している。学費も職場が出資)

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学 (薬学科)

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>学科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。 (学修成果基盤型教育の徹底)</p>	<p>1 全教員で薬学科のブランドビジョンを策定した上で、3つのポリシーの改訂を行い、教員・学生・学外への周知を行う。カリキュラム委員会が中心となり、ブランドビジョンを達成するためのカリキュラム編成を行う。</p> <p>2 学修者本位の教育課程編成の理念のもと、薬学科の3つのポリシー(DP・CP・AP)を明確に定め、学生などのステークホルダーに対し、ホームページ・ガイダンス・オリエンテーション等様々な方法を活用し周知する。また、学生自らの学びを省察できる体制を構築する。その方法として以下の取り組みを重点課題とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修支援システム(UNIVERSAL PASSPORT)の積極的な活用(特に学修ポートフォリオ、マイステップの機能) ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講促進 ・初年次教育につながる入学前教育の実施 <p>3 薬学科のポリシーに基づく入学者選抜を実施するために以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーに沿った、入試科目の設定 ・高等学校の教育課程に応じた出題範囲の設定と見直し ・学力の3要素、意欲、資質、能力を多面的に評価する評価基準の見直し ・入学者の追跡調査 ・上記4つの実施とその結果の分析、それを踏まえたアドミッションポリシーの策定 <p>4 薬学科のブランドビジョンを明確に示し、土台となる横断的な基礎教養教育を実践することで、医療・福祉などのコ・メディカル専門人材を育成する。その一例として、アクティブ・ラーニングを推奨し、自ら自分自身の学修における問題を提議し、解決策を考え、それを実践できる人材の養成に繋がる教育手法を共有する。</p> <p>5 学修成果の点検・評価においては、学修成果基盤型教育における評価基準を事前に設定した上で3つのポリシーを踏まえて、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように、卒業生や地域社会関係者及び地域医療関係者による効果的な第三者評価の実施など、教育の改善向上に取り組む。</p> <p>6 大学全体のFD活動はもとより、薬学科のFDの実践を推奨し、個別の課題を横断的に共有することで、全体の課題解決に取り組む。また、教育実践の点検評価として、授業アンケートの実施方法並びに内容を検証することで、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組む。</p> <p>7 中核センター教育開発部門が中心となり、教授方法改善に繋がるFD活動を毎年実施し、学部学科の垣根を超えた教員間のグループワークを行うなど、教育方法の改善に取り組む。</p> <p>8 本学は医療・福祉を中心とした専門職人材養成を目指す学部学科により構成されている。その土台となる学部横断的な基礎教養教育の充実並びに開発に努め、地域社会に貢献できる人材養成を実践できるカリキュラムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリー(履修系統図)及び履修モデルの活用、精査 ・シラバスの検証とチェック体制の強化

<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 中核センター教育開発部門を中心に、教職協働によるエンロールメントマネジメントに関する方針・計画・実施体制を適切に整備し、運営する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全学的なチューター制度を土台に、学修支援システム（ユニバ）の積極活用により、学生 個々の支援体制を強化する。 ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期から学生の対応に取り組む。 ・在学中のあらゆる活動を可能な限り可視化（ユニバ、マイステップの積極活用）し、学生のキャリア開発を継続的に支援する。 2 教職協働により在籍学生数に応じた教室の割り当ておよび管理を行う。教室設備の経年劣化に伴う改修等も見据え、将来計画を踏まえた実現可能かつ実効性のある学修環境を提供する。 3 リメディアルを含めて、学生アンケートの実施と回答率向上に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの回答促進を行う。 ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。 4 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は学生便覧やオリエンテーションにおいて周知徹底を図り、厳正に適用することで進級・卒業率の向上に取り組む。卒業研究はルーブリックを用いて公正な評価を行う。 5 自ら考え行動できる専門職人材を養成する為に、学部学科を横断した教養科目の開発に取り組み、専門的な知識と技術の実践に必要な、思考力・判断力・コミュニケーション能力、及び国語力等の基礎学力向上に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・さららの利用促進を含め、基礎学力向上に向けた取り組み強化について全学的に検証する。 ・学部横断科目の履修者を増やす。
<p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p>	<p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援体制」を構築する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備を進める。地元企業と連携し、学生のキャリア支援の取り組みとしてオープンカンパニーやインターンシップを含む企業との接点を積極的に提供する。また、外部機関と連携し学生のキャリア支援を強化する。 2 就職支援サイトと連携することで就職支援の強化に努める。ミスマッチを防ぐことを最大の目的とし、本学独自の就職ガイダンスを実施する。また、各地で開催される就職説明会等の情報を収集し、職種にあった情報をリアルタイムで提供する。 3 キャリア支援の一環として、公務員試験対策講座の強化を進める。参加学生の要望や各自治体の採用試験に合わせ、現場の専門職も参加した、より有意義な講座とする。 4 学生に各種就活イベント等への参加を促進する。各学科のキャリアサポート委員と連携し、学科が求めるガイダンスを通年で実施する（就職面談会〔5年生対象〕など）。また、対面での就職活動を意識したイベントも新たに計画する。
<p>4) キャンパス環境の整備</p>	<p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の優先順位や必要性を明確化した上で、中長期的視点に立った修繕計画の立案や既存施設の老朽化対策を検討することで、学修環境の整備や管理を行う。 2 実習施設、図書館等の有効活用を検討し、学生のニーズに対応する教育研究環境を整える。 3 学修環境に関するアンケート調査や学生との意見交換の結果を分析・検討し、安全で快適なキャンパス生活実現に向けた環境整備に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・建物の利用状況や用途、設備の整備状況等を把握し施設の有効活用を図る。

<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。 (次ページ 学生支援の前まで)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 外部研究費の獲得や国際学術誌への論文投稿などを促進する研究支援体制を構築することで研究環境の整備に努め、実施される研究活動についても研究倫理や安全面での管理を行い、適切な研究体制の運営を行う。 2 研究活動を適正に行う為に、関係諸規程の見直しや制定を行い周知する。併せて関係委員会などにおいて厳正な研究内容の審査を実施し適正な運用を行う。 3 海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を推奨し、研究のグローバル化を推進する。 4 研究活動の点検・評価においては、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを確立し、より質の高い研究活動が実施できるよう、適切な研究体制を構築する。 5 論文発表、学会発表等の研究成果を可視化・公表することで、地域における研究のノード機関としての役割を構築する。 6 学科内の高額共通機器等について、計画的な導入・更新を図る体制を見直す。 7 学科内の共通機器等の管理者を明確にし、不具合時の対応だけでなく研究成果を上げる効果的な使用方法等についての情報を共有する。
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握し、分析・検討することで学生サービス向上に活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 ・学生の健康管理に関して外部機関と連携 ・課外活動支援の充実 2 各機関および諸団体から提供される奨学金情報は、遺漏のないように対象となる学生に確実に案内をすることで、学生の経済的負担を軽減することに繋げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・家計急変等の情報を教職員間で共有することで、学生支援体制を構築 3 バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性向上を図る事で、学生サービス向上に繋げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査及び学生との意見交換を実施。
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施と検証を行う。(再掲) 2 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持に取り組む。 3 入試・入学後のデータを分析し、高校との連携強化に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・入試データおよび入学後の学生の伸長状況などのデータを分析し、関連部署と連携し、高校への情報発信を実施 4 学生を活用した大学の魅力を発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化、学友会組織の強化、在学生に対するイベントの企画・告知・実施 ・オープンキャンパスにおける学生ボランティア、「在学生と語ろう」の実施 5 効果的な学生募集の実施に向けて、卒業生の大学に対する満足度を向上させ、同窓生(会)との組織的な連携に取り組む。 6 地域の学びの拠点として、施設の開放や受け入れなど以下の内容を積極的におこなうとともに広く活動を周知する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地元学生・生徒のための体験行事、課外学習の受け入れ ・施設の貸し出し、本学を会場とした公開講座の実施やセミナーなどのイベントを開催

募集力(ブランド力)		<p>7 教員一人ひとりの研究内容、成果についての情報発信を行う。また、高校生の課題研究に積極的にかかわり、高校との連携強化に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県北サイエンスフォーラム ・ 県内高校の課題研究サポート <p>8 SNS・ウェブサイトを活用した、本学の魅力(学科の特色)や大学・学科の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬学科の活動やイベント、薬用植物園の開花状況などを定期的に発信 ・ 学生スタッフを配置し、学生目線の情報発信による募集広報戦略を展開
グローバル化	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生の受け入れ増加、受け入れに伴う環境整備の推進、ラーニングサポートセンター(英語村)の充実など <p>2 薬学科教員が、定期的に米国提携校のフィンドレー大学への短期研修プログラムに参加し、フィンドレー大学からの薬学生の受け入れも定期的に行い、両校の交流を推進する。薬学科学生の海外留学・短期研修プログラムについては、実施可能かどうかを積極的に検討する。また、学生の英語力向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラーニングサポートセンター(英語村)において、留学を希望する学生の語学力の向上のためのネイティブ講師によるレッスンを充実 ・ 留学を目的とした英語力の向上を目指すだけでなく、国際交流のためのイベントなどを充実
地域活性化	<p>1) 地域活性化の為に拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進 ・ 県内の大学間連携・高大連携を推進

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（動物生命薬科学科）

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>学科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p> <p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p> <p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p> <p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>1 3つのポリシーの明確化による教育目標の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 前後期毎のオリエンテーションにて、学科独自に作成した学修マニュアルを用いてにおいて、3つのポリシーを明確に示す。 学修支援システム（ユニバ）の積極的な活用。 <p>2 基礎学力を向上させ資格試験の合格率を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物看護師、実験動物技術者の受験資格に必要な科目、成績などを学修マニュアルに明記、各資格試験受験担当者からの受験指導を実施する。（学芸員資格は必要な科目修得で取得できる） 生物学について、入学前教育（課題学習：問題集）を実施する。 リメディアル教育を生物Ⅰ、化学Ⅰ、数学Ⅰで実施する。 学部横断的な基礎教育科目の履修を学生に推奨する。 <p>3 学生の学修目的の把握・明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次にインターンシップ（動物病院、宮崎大学附属牧場） <p>4 教育において注意や配慮を要する学生情報の共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科会議等で情報の共有化、分析、支援対策・体制、進捗方法等を確認することで教育の質の向上に努める。 <p>5 大学及び学部FDに積極的に参加、教員の資質向上に努める。</p> <p>1 チューター制度・学修支援システム（ユニバ）の積極的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間で学生情報の共有化を随時、あるいは定期的（学科会議）に図り、円滑な学生対応により、退学者等を予防する。 必要に応じて、医務室並びに学生課等と連携を図り、円滑な学生対応を実施する。 <p>2 基礎学力の確認・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学直後に、「生物学」の試験を全員に実施、基礎学力を確認すると共に、成績は教員が共有、学生の教育指導に活用する。 1年次においては、「すらら」を利用することで基礎国語力の向上に取りくむ。 <p>3 卒業研究のレベルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年次から卒業研究の教員（チューターを兼ねる）を固定し、2年間の継続した教育研究指導を実施する。 <p>4 学科独自の学修マニュアル・飼育マニュアルの作成により、学習効果の向上を図る。また、学科独自の学科基準薬を定め、愛玩動物看護師、実験動物技術員などの職域にふさわしい薬の知識を修得する。</p> <p>1 就職率100%を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次において、①キャリア教育（必修）で専任教員並びに外部講師のキャリア並びに②動物病院、宮崎大学農学部附属牧場、リバーバル五ヶ瀬川におけるインターンシップ（選択科目：必修扱い）を通して、将来、愛玩動物看護師やその他の職域に必要な知識・技術を知ることで、学生個々の就職先における学びの必要性について早期に動機づけを行う。 動物病院・企業―教員間のネットワークを活用、キャリアサポート委員並びにキャリアサポートセンターと情報共有し、学生が希望する職種の情報提供を円滑に行う。 学科―キャリアサポートセンターと積極的に連携、動物病院・企業等の情報の収集、並びに学生への円滑な情報提供あるいは学内就職説明会を実施する。 <p>1 高度な獣医療に関わる愛玩動物看護師（国家資格）の育成に相応しい教育設備の充実を図る。そのために、教育・研究機器の新規導入あるいは更新の優先順位を立案・計画する。</p>

<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>1 研究活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業など競争的外部資金への応募を推奨する。 ・学内・学外との研究ネットワークを広げ、共同研究を推奨する。 ・学術論文・学会発表を推奨する。 ・学会・研究会等への参加を推奨する。 ・学位（博士）取得を推奨する。
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>1 チューター制度を活用、適宜面談を実施することで学生の健康並びに健康状態を把握するとともに、学生の要望をも把握する。その情報は学科会議等で教員間で共有、対策を検討、実施することで学生サービスの向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 ・学生課とも協働し、奨学金情報を収集、学生に情報提供する。 ・講義・実習に汎用する大会館における学生専用の休憩室（飲食可能な）の設置について関係部署と協議、学生サービス並びに利便性を向上を模索する。
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>1 九州で唯一、大学として新たな国家資格の愛玩動物看護師受験資格取得が可能であることを発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ（学科）を活用、学科の特色を発信する。 <p>2 大学（学科）と動物病院との連携を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛玩動物看護師病院実習における病院提携の登録の推進を行い、登録証を発行することで、本学のブランド形成と募集力の一助とする。 <p>3 オープンキャンでは、本学科で取得できる3つの資格（愛玩動物看護師、実験動物技術者、学芸員）並びにフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度とその実績（日本の獣医師誕生）を積極的に展示、広報する。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>1 フィリピン国立大学獣医学部（UPLB）への海外留学並びに短期研修プログラムを推進して、参加学生の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングサポートセンター（英語村）において、留学を希望する学生の語学力の向上のためのネイティブ講師によるレッスンの受講を推進する（英語村を積極活用）。 ・2年次の英語科目（選択）では留学を目的としたTOEFL対策の授業を推進する。 <p>2 UPLBからのインターンシップ学生を円滑に受け入れるための学内・学外の仕組みを構築する。</p> <p>3 海外留学生（UPLB以外）の受け入れるための仕組みを模索する。</p> <p>4 学術交流協定校のUPLBと教員間（全学科を対象とした）の国際交流を図り、共同研究のグローバル化を模索する。</p>
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為に拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>1 学科教員の地域連携力の資質向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクトの調査・実施を推進する。 ・市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果を発信する。

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（生命医科学科）

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>学科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p> <p>2) 学修支援体制の強化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。</p> <p>3) キャリア支援並びに就職支援の強化</p> <p>建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。</p> <p>4) キャンパス環境の整備</p> <p>本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。</p>	<p>1 生命医科学科における3つのポリシーを明確に示し、教育の目標・目的を明確にする。</p> <p>2 学修者本位の教育課程編成の理念のもと、生命医科学部生命医科学科に掲げる3つのポリシー（DP・CP・AP）を明確に定め、学生へホームページ・ガイダンス・オリエンテーションなど、様々な方法を活用し周知する。 ・学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）を積極的に活用する。 ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講を促進する。 ・初年次教育につながる入学前教育を実施する。</p> <p>3 生命医科学科のポリシーに基づく入学者選抜を実施するために以下の取り組みを行う。 ・アドミッションポリシーに沿った、入試科目の設定を行う。 ・高等学校の教育課程に応じた出題範囲の設定と見直しを行う。</p> <p>4 生命医科学科卒業後の将来像を明確に示し、基礎教養教育を実践することで、グローバルな医療専門職としての人材を育成する。</p> <p>5 学修成果の点検・評価においては、3つのポリシーを踏まえて、点検・評価を行いPDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように教育の改善に取り組む。</p> <p>6 大学全体のFD活動はもとより、生命医科学科のFDの実践を推奨し、個別の課題を横断的に共有することで、全体の課題解決に取り組む。また、教育実践の点検評価として、授業アンケートの実施方法並びに内容を検証することで、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組む。</p> <p>1 生命医科学科教員を中心とし入学前・進級・国家試験・卒業に至る間の体制を適切に整備し運営する。 ・チューター制度を土台に、学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の積極活用により、学生個々の支援体制を強化する。 ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期対応を図ることで、未然に退学を防止する。 ・国家試験合格率アップのための対策を講じる。</p> <p>2 学生アンケートの実施と内容改善に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。 ・授業アンケートの回答促進を行い、毎年度の回答率向上に取り組む。 ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。</p> <p>3 生命医科学科では卒業研究を必須化しており、同時に卒業を見据えてルーブリック評価を用いた国家試験合格相当かの評価を行う。</p> <p>1 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備を進めるため、キャリアサポートセンターと協力して以下の事を行う。 ・履歴書の書き方指導 ・面接の受け方の指導</p> <p>2 次世代の医療人として「キャリアアップ」と「キャリアデザイン」を目指すために、本学科オリジナルの「キャリア教育」を構築・展開する。</p> <p>1 学修環境に関するアンケート調査や学生との意見交換の結果を分析・検討し、安全で快適なキャンパス生活実現に向けた、環境整備に取り組む。</p>

<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>1 学科教員の研究力アップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究費の獲得や国際学術誌への論文投稿などを促進する。 学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 研究力アップの仕組みを充実させ、研修等を周知する。 学会への参加等、研究活動に必要な機会を保障する。 学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 本学出版の査読制ジャーナル（JHWI）のさらなる充実化を目指す。 大学の知的財産の充実化を図るために、「ものづくり」を中心とした企業的人材育成と産学官連携事業の強化を推進する。 <p>2 論文発表、学会発表等の研究成果を可視化・公表することで、地域における研究のノード機関としての役割を構築する。</p>
<p>学生支援</p>	<p>1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上</p> <p>学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。</p>	<p>1 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握し、分析・検討することで学生生活に積極的なサポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 退学へつながる欠席の多い学生への教員からの連絡 学生の健康管理に関して外部機関と連携 課外活動支援の充実
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>1 アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施と検証を行う。(再掲)</p> <p>2 入学定員に沿った適切な学生受入数の維持に取り組む。</p> <p>3 入試データの分析、高校との連携強化に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学後の追跡調査、入学後の学生の学力の伸長などの分析を行う。 <p>4 学生を活用して大学の魅力を発信する。</p> <p>5 地域の学びの拠点として、施設の開放や受け入れなど以下の内容を積極的におこなうとともに広く活動を周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元学生・生徒のための体験行事、課外学習の受け入れを行う。 施設の貸し出し、本学を会場とした公開講座の実施やセミナーなどのイベントを開催する。 <p>6 教員一人ひとりの研究内容、成果についての情報発信を行う。</p> <p>また、高校生の課題研究に積極的にかかわり、高校との連携強化に取り組む。</p> <p>7 SNSを活用した、本学の魅力(学科の特色)や大学・学科の情報発信を行う。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進</p> <p>国際競争力を意識した教育・研究に取り組む、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。</p>	<p>1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科の学生に対して、ラーニングサポートセンター(英語村)の積極的な利用を促す。
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為の拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進する。 県内の大学間連携を推進する。

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（大学院：社会福祉学研究科・保健科学研究科・医療薬学研究科）

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。</p>	
<p>区分</p>	<p>全学共通目標</p>	<p>各研究科別計画・対策</p>
<p>教育力(使命・目的等を含む)</p>	<p>1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化</p> <p>学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。</p>	<p>◆3つのポリシーを明確に示し、それらを踏まえた学修成果の可視化を図り、大学院生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。</p> <p>◆時代のニーズに対応したカリキュラムおよび指導体制の検討・検証を引き続き行う。</p>
<p>研究力</p>	<p>1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化</p> <p>地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。</p>	<p>◆各研究室や教員個々の研究力向上を図り、国内外の学術論文発表数を増やす対策を講じる。</p>
<p>募集力(ブランド力)</p>	<p>1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化</p> <p>ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。</p>	<p>◆定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。</p> <p>◆各研究室や教員個々の研究・指導内容に関する情報発信を行う。</p>
<p>地域活性化</p>	<p>1) 地域活性化の為の拠点創生</p> <p>地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。</p>	<p>◆大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。</p>